

交通安全対策委員会

発表日 令和5年2月19日

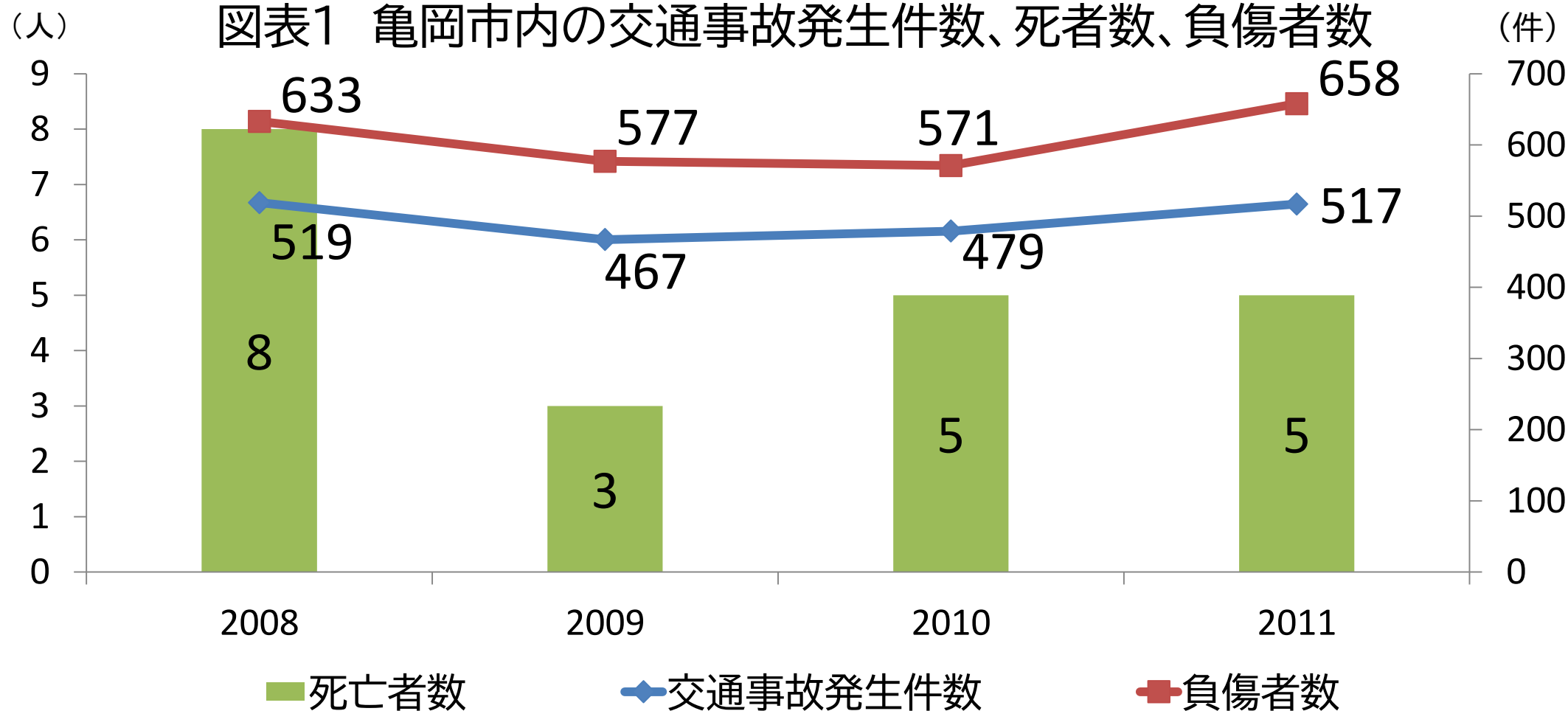
発表者 交通安全対策委員会 委員長

中尾 臣裕

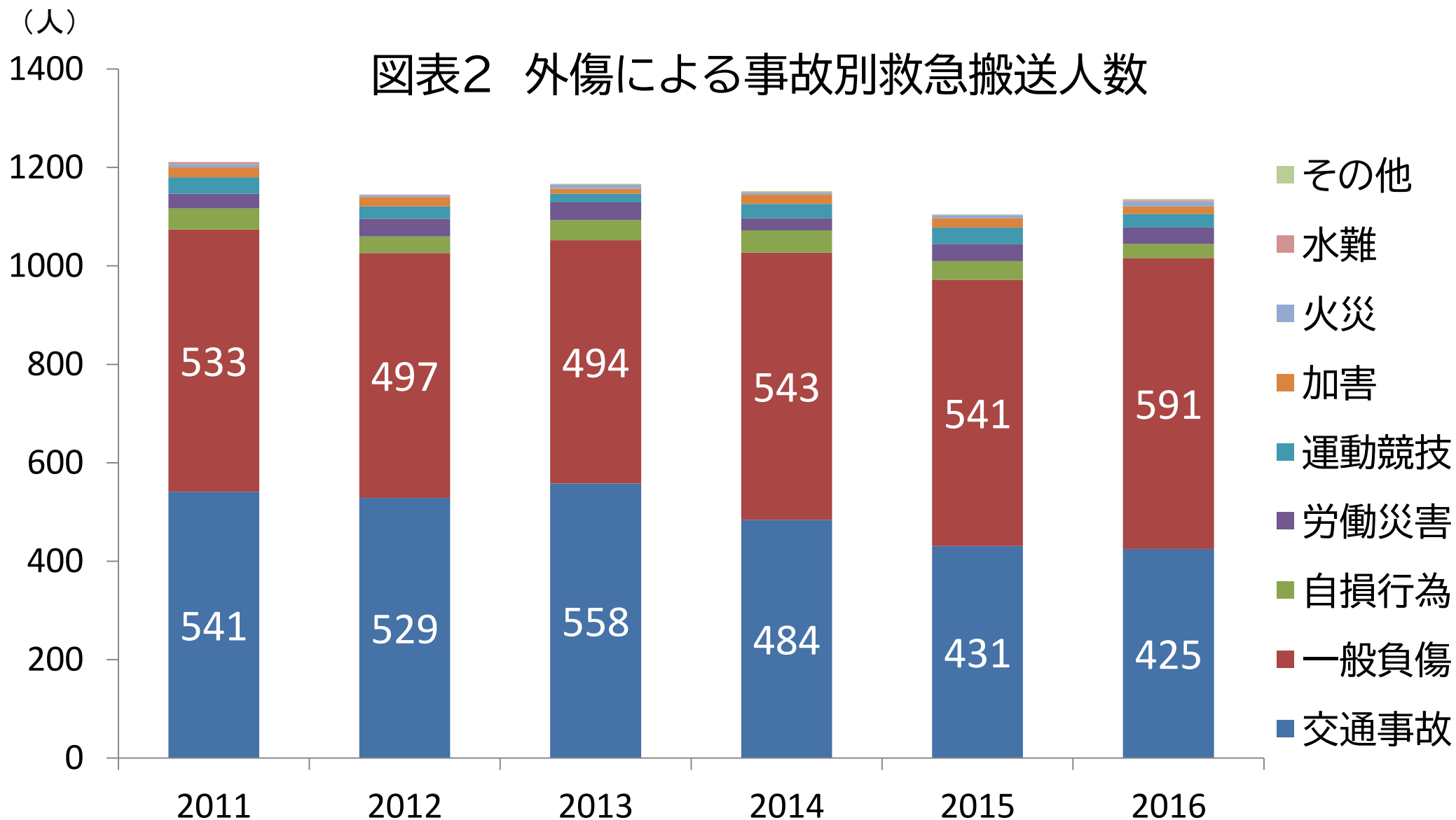
2011年「交通安全対策委員会」を設置

理由①「交通事故発生件数は、年間約500件、
負傷者は約600人前後、死亡事故も
毎年数件発生している」

図表1 亀岡市内の交通事故発生件数、死者数、負傷者数



理由②「救急搬送データによると、外傷の約50%は交通事故の負傷者が占めている」



交通安全対策委員会構成

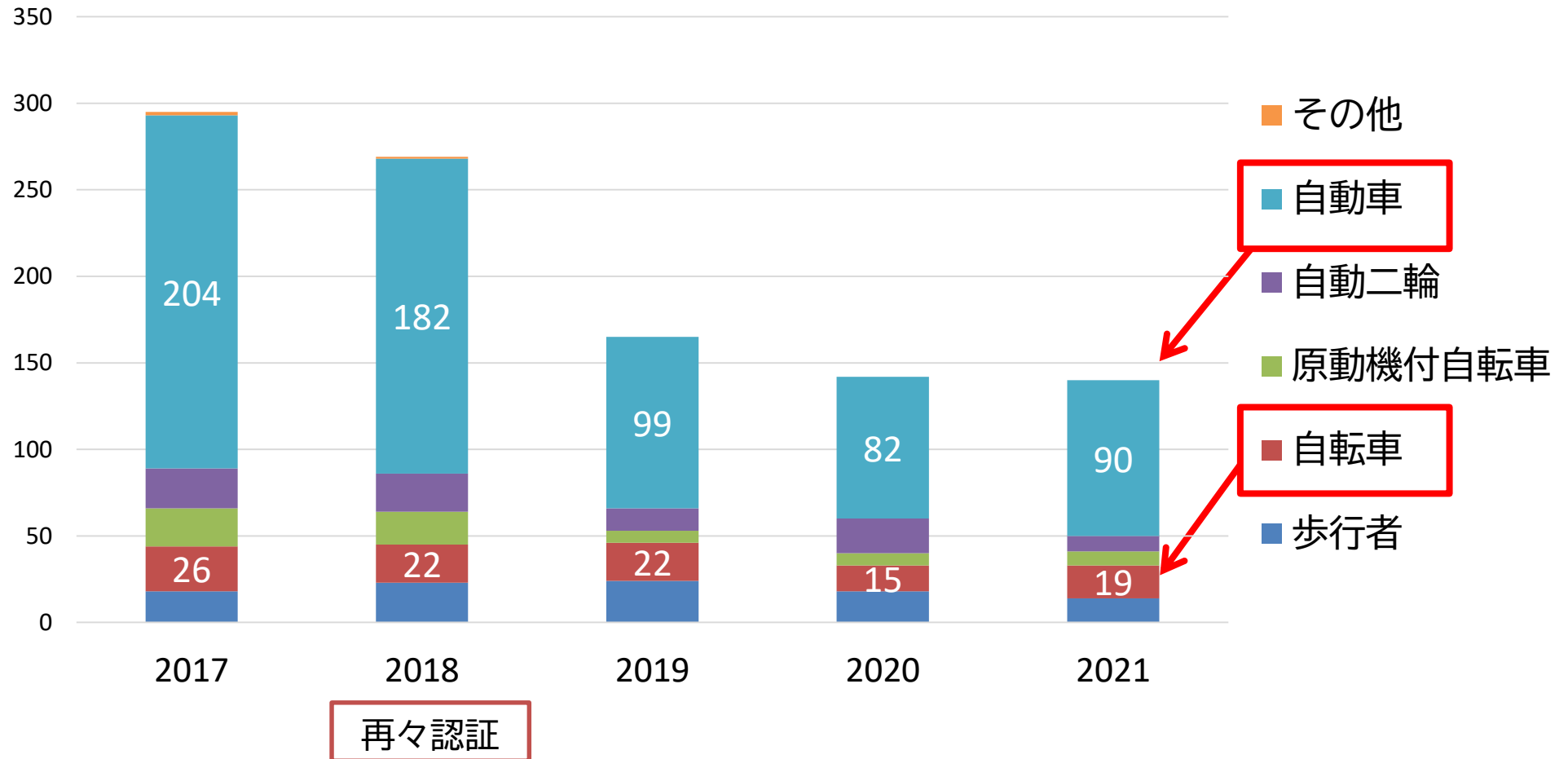
区分		所属団体	役職
市民団体等	1	有限会社 楠新聞舗	委員長
	2	亀岡市老人クラブ連合会	
	3	自転車交通安全指導員	
関係機関等	4	亀岡交通安全協会	副委員長
	5	亀岡地域交通安全活動推進委員協議会	
	6	京都府亀岡警察署	
	7	亀岡市立中学校長会代表(育親中学校)	
	8	亀岡市立小学校長会代表(畑野小学校)	
行政関係	9	京都府府民環境部安心・安全まちづくり推進課	
	10	亀岡市総務部	
	11	亀岡市学校教育課	
	12	亀岡市桂川・道路交通課	
	13	亀岡市土木管理課	

データに基づく客観的課題(継続)

「1 自動車 2 自転車」を運転中に 負傷することが多い」

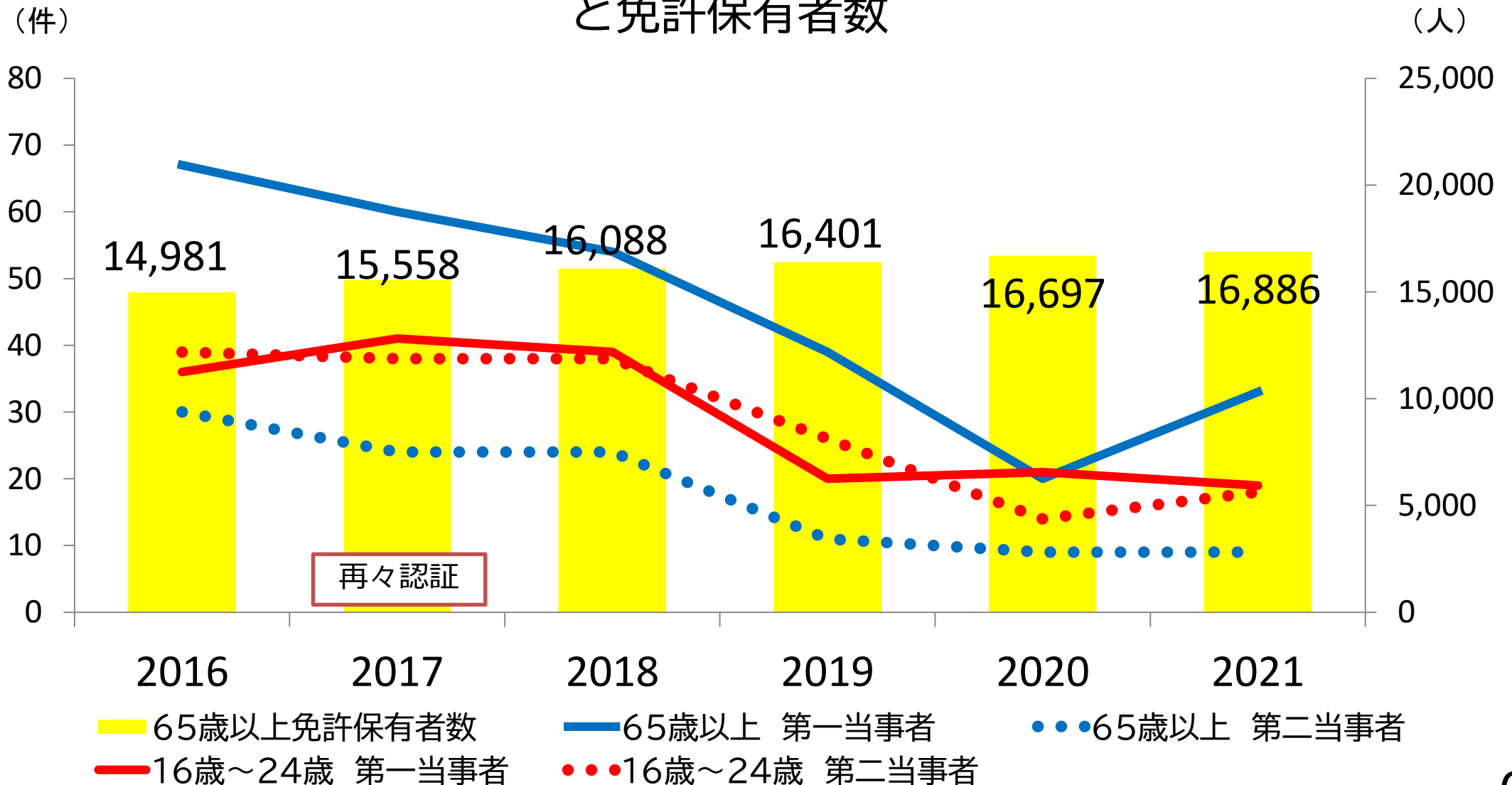
(人)

図表3 亀岡市内における交通事故負傷者数の推移



データに基づく客観的課題（継続） 「高齢者は第一当事者の割合が高い」

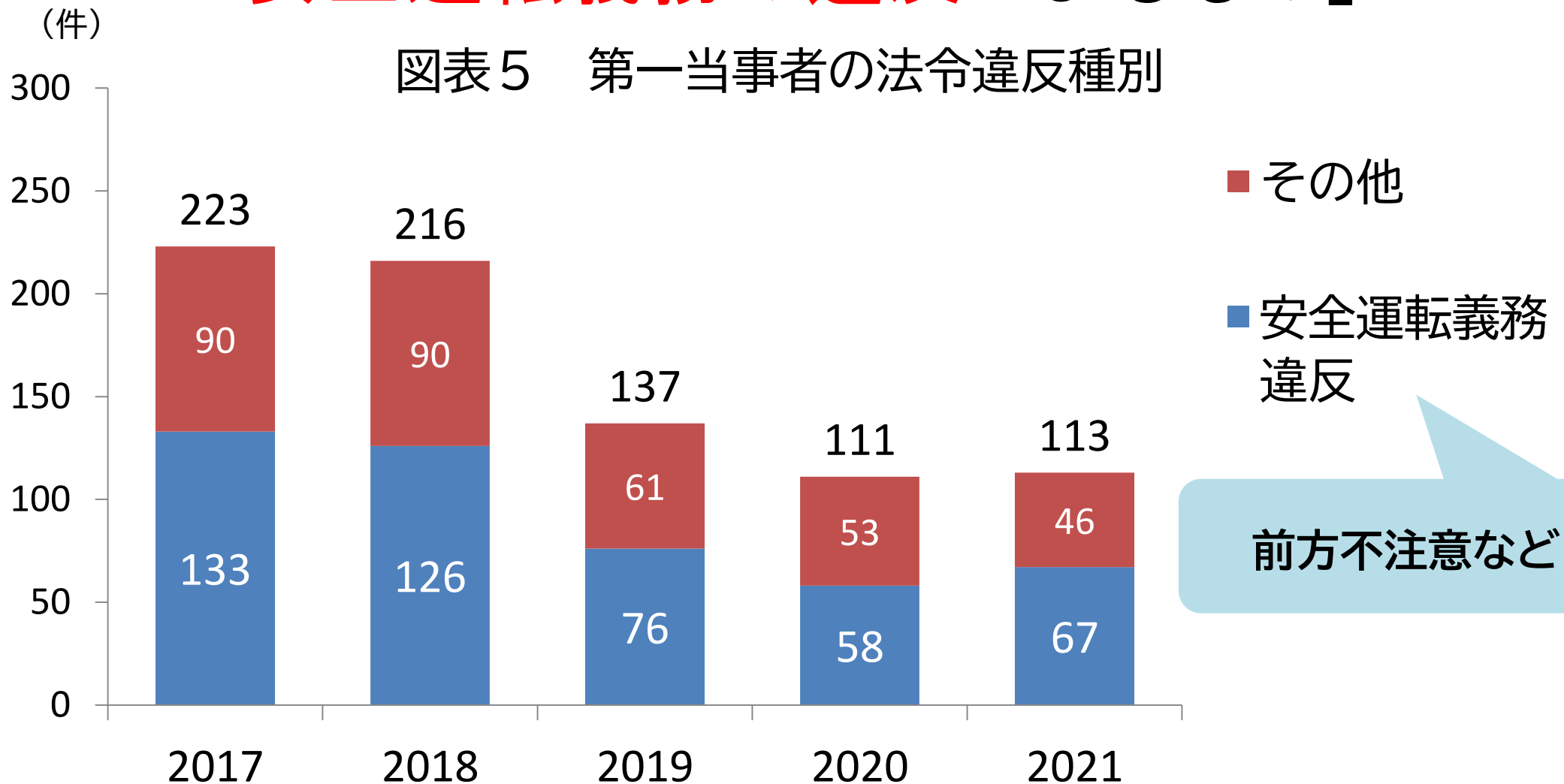
図表4 亀岡市内における第一・第二当事者の事故件数
と免許保有者数



出典：交通統計

データに基づく客観的課題(継続) 「交通事故の原因の多くは**基本的な安全運転義務の違反**によるもの」

図表5 第一当事者の法令違反種別

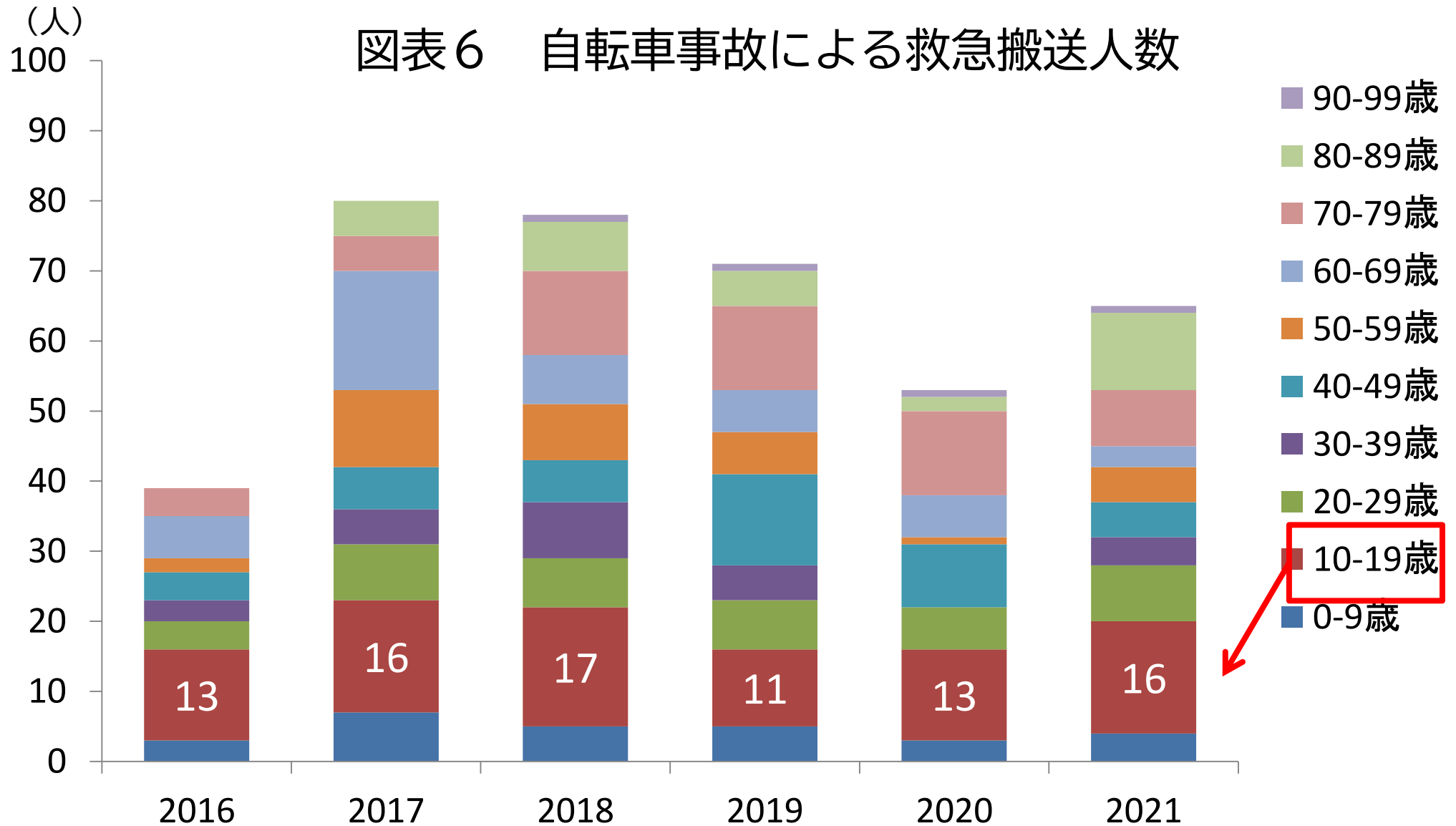


再々認証

出典：交通統計

データに基づく客観的課題(継続)

「自転車事故での負傷者は10歳代が多い」



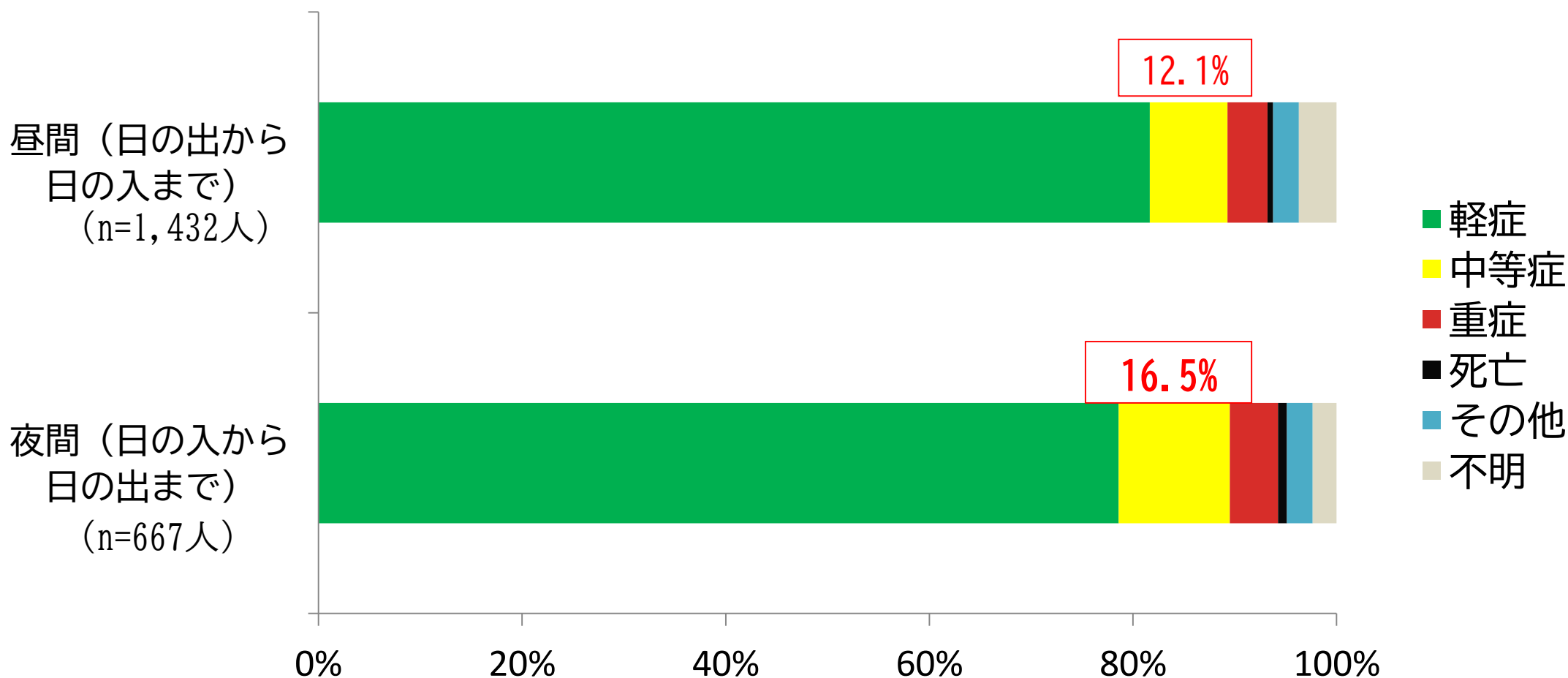
出典：救急搬送データ

再々認証

データに基づく客観的課題（継続）

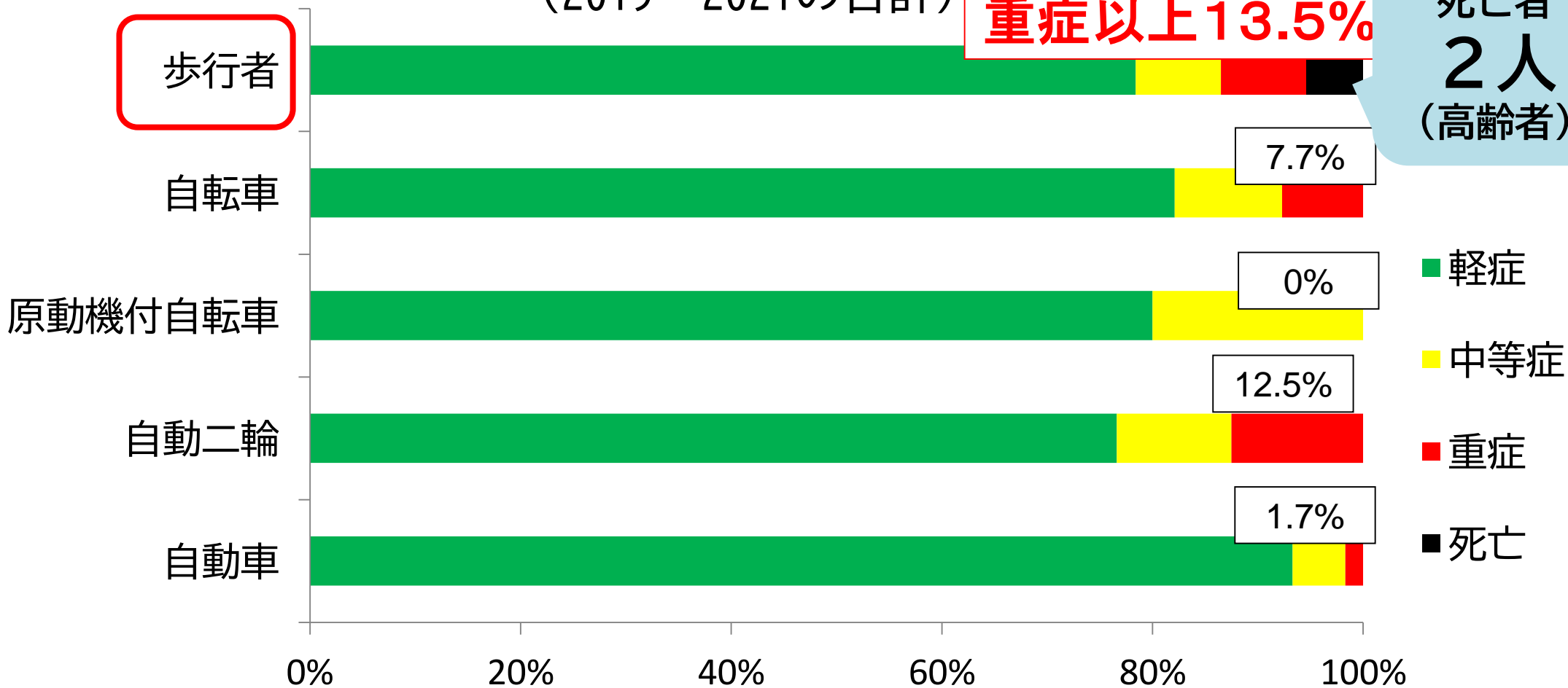
「夜間の事故は昼間よりも 中等症以上の割合が高い」

図表7 交通事故発生時間帯別外傷程度割合（2016～2021の合計）



データに基づく客観的課題（継続） 「夜間の歩行者事故は重症化しやすい」

図表8 亀岡市の交通事故の夜間時間帯の外傷程度
(2019~2021の合計)

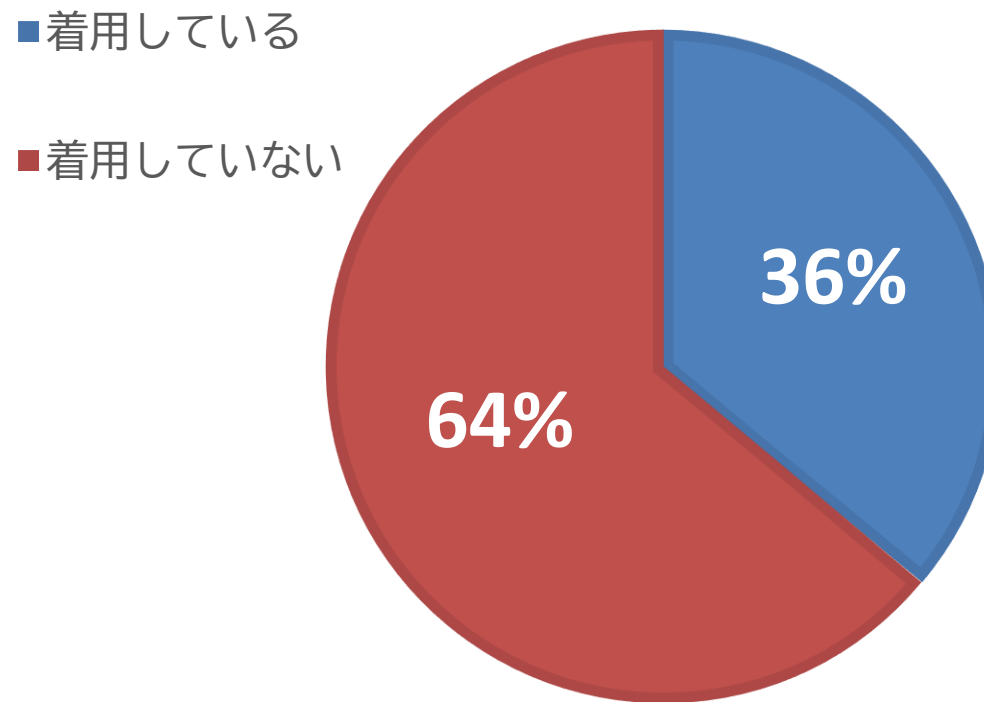


データに基づく客観的課題(継続)

「歩行者の多くは**反射材を着用していない**」

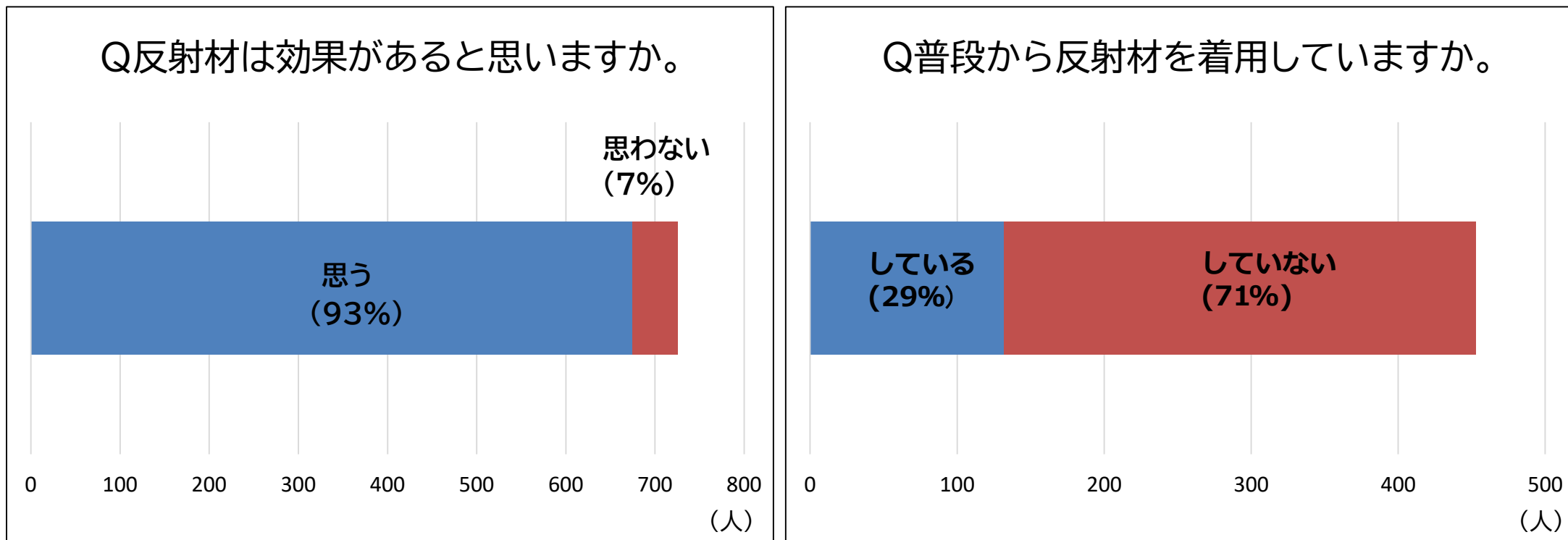
図表9 反射材を着用するようになった人の割合 (n=585人)

反射材を着けて外出していますか



データに基づく客観的課題(新規) 「高齢者の歩行者は反射材の効果を理解しているが、着用率は低い」

図表10 高齢者の反射材の効果への理解度と着用率



出典：亀岡市高齢者運転免許証自主返納支援事業アンケート(2018～2021の合計)

主観的・客観的課題の整理

データに基づくもの

- ・(継)自動車、自転車を運転中に負傷することが多い(図表3)
- ・(継)高齢者は第一当事者の割合が高い(図表4)
- ・(継)安全運転義務違反が多い(図表5)
- ・(継)自転車事故での負傷者は10歳代が多い(図表6)
- ・(継)夜間の事故は昼間よりも中等症以上の割合が高く、特に歩行者の事故は重症化することが多い(図表7, 8)
- ・(継)反射材を着用している人が少ない(図表9)
- ・(新)高齢者の歩行者は反射材の効果を理解しているが、着用率は低い(図表10)

経験に基づくもの

- ・(継)自転車の法規制の強化について認知度が低い
- ・(継)自転車のマナーが悪い
- ・(継)全国的に高齢者が加害者となる交通事故のニュースが多い
- ・(継)登下校時の事故が心配
- ・(新)夜間の歩行者は反射材をつけていないことが多く、危険である



重点課題の設定

課題解決のための方向性と対策(1)

課 題		方 向 性		対 策
<ul style="list-style-type: none"> ・(継)自動車運転中の負傷者が最も多い ・(継)高齢者は第一当事者の割合が高い ・(継)全国的に高齢者が加害者となる交通事故のニュースが多い 	→	<p>高齢ドライバーによる交通事故を減らす</p>	→	<p>① 高齢者運転免許証自主返納支援プログラム(継続)</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・(継)自転車運転中の負傷者は2番目に多い ・(継)自転車事故での負傷者は10歳代が多い ・(継)自転車の法規制の強化について認知度が低い ・(継)自転車のマナーが悪い 	→	<p>10歳代の自転車事故を減らす</p>	→	<p>② 自転車安全利用教育プログラム(継続)</p>

課題解決のための方向性と対策(2)

課 題	方 向 性	対 策
<ul style="list-style-type: none"> ・(継)夜間の事故は昼間よりも中等症以上の割合が高く、歩行者の事故は重症化することが多い ・(継)反射材を着けている人が少ない。 ・(新)夜間の歩行者は反射材をつけていないことが多く、危険である ・(新)高齢者の歩行者は反射材の効果を理解しているが、着用率は低い 	<p style="text-align: center;">夜間に車両から歩行者を守る</p>	<p style="text-align: center;">③ 反射材着用促進プログラム(継続)</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・(継)安全運転義務違反が多い ・(継)登下校時の事故が心配 	<p style="text-align: center;">交通安全意識の高揚を図る</p>	<p style="text-align: center;">④ 参加型交通安全プログラム(継続)</p>

プログラムの運営状況

	進行状況					計画	
	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023
①高齢者運転免許証 自主返納支援プログラム(新規)		再々認証	継続				
②自転車安全利用教育プログラム(継続)			継続				
③反射材着用促進プログラム(新規)			継続				
④参加型交通安全プログラム(新規)			継続				

①高齢者運転免許証自主返納支援プログラム(継続)

課 題	自動車運転中の交通事故負傷者が多い	
目 標	高齢ドライバーの交通事故を減らす	
内容等	【内容】	交通事故全体に占める高齢者事故の割合が上昇していることから、運転に不安のある高齢者に対し、運転免許証の自主返納を促し、未然に交通事故を防止する。
	【対象】	高齢ドライバー(70歳以上)
(短・中期) 態度や行動の 変化	【指標】 免許証を自主返納した高齢者の数(亀岡警察署)	【測定】 亀岡警察署調べ
(長期) 状態や状況の 変化	【指標】 高齢ドライバー(65歳以上)の交通事故件数 第一当事者のみ 運転免許証保有者数に対する交通事故発生件数	【測定】 交通統計

高齢者運転免許証自主返納支援 プログラムの活動状況

自主返納の窓口



反射シールや啓発チラシの配布も

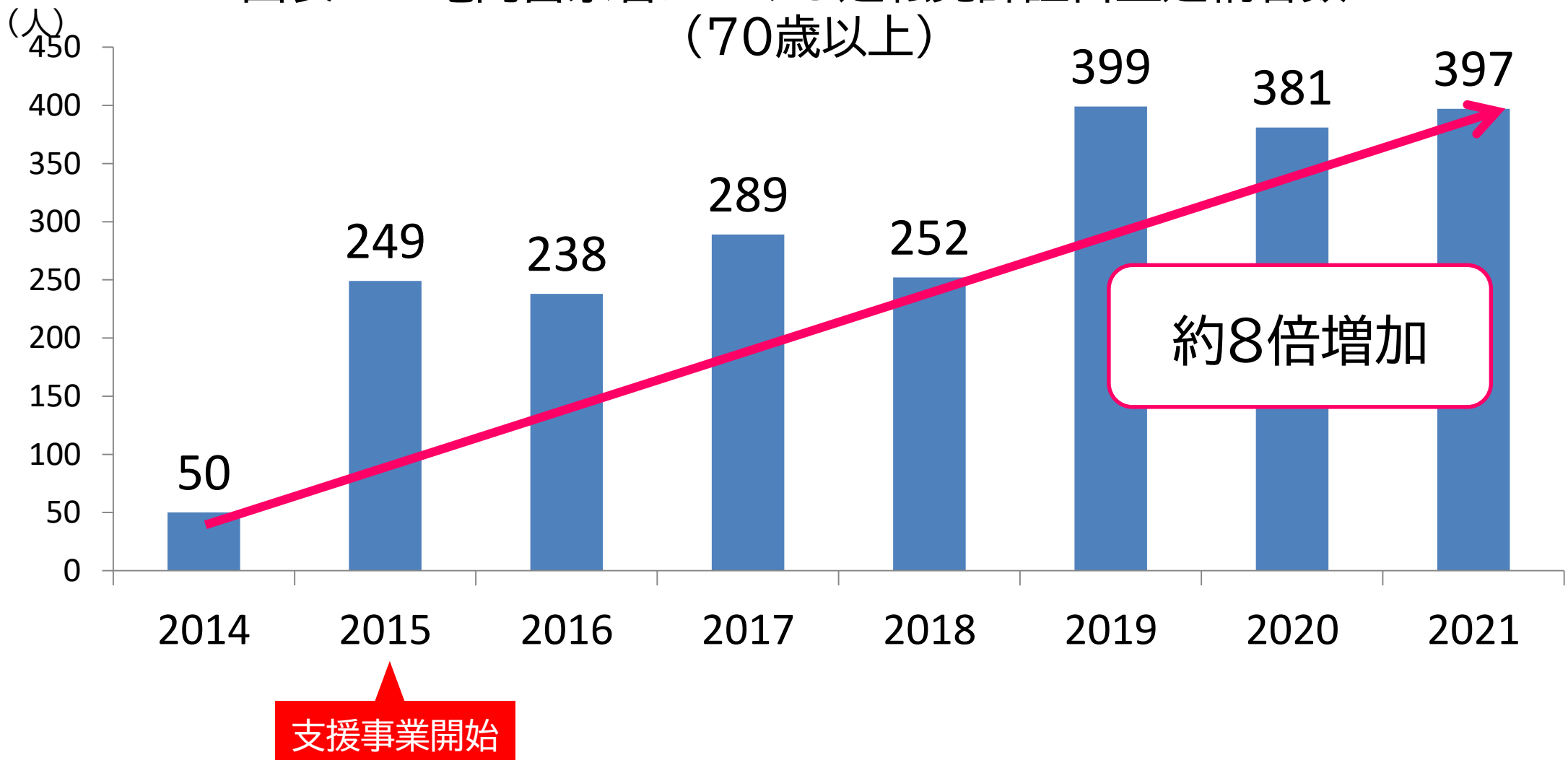
プログラムの活動実績

	実績(年度)					対策委員会の 関わり	工夫 点
	2017	2018	2019	2020	2021		
自主返納支援者実績 亀岡市高齢者運転免許証	289	252	399	381	397	<ul style="list-style-type: none"> ●実施に至るまでの調整 ●広報方法の検討 ●事業の効果検証 	反射シール等の配布

・累計支援者 2,205名(運用開始日～2021年度末)

プログラム評価結果(短期・中期) 「運転免許証自主返納者は**増加**」

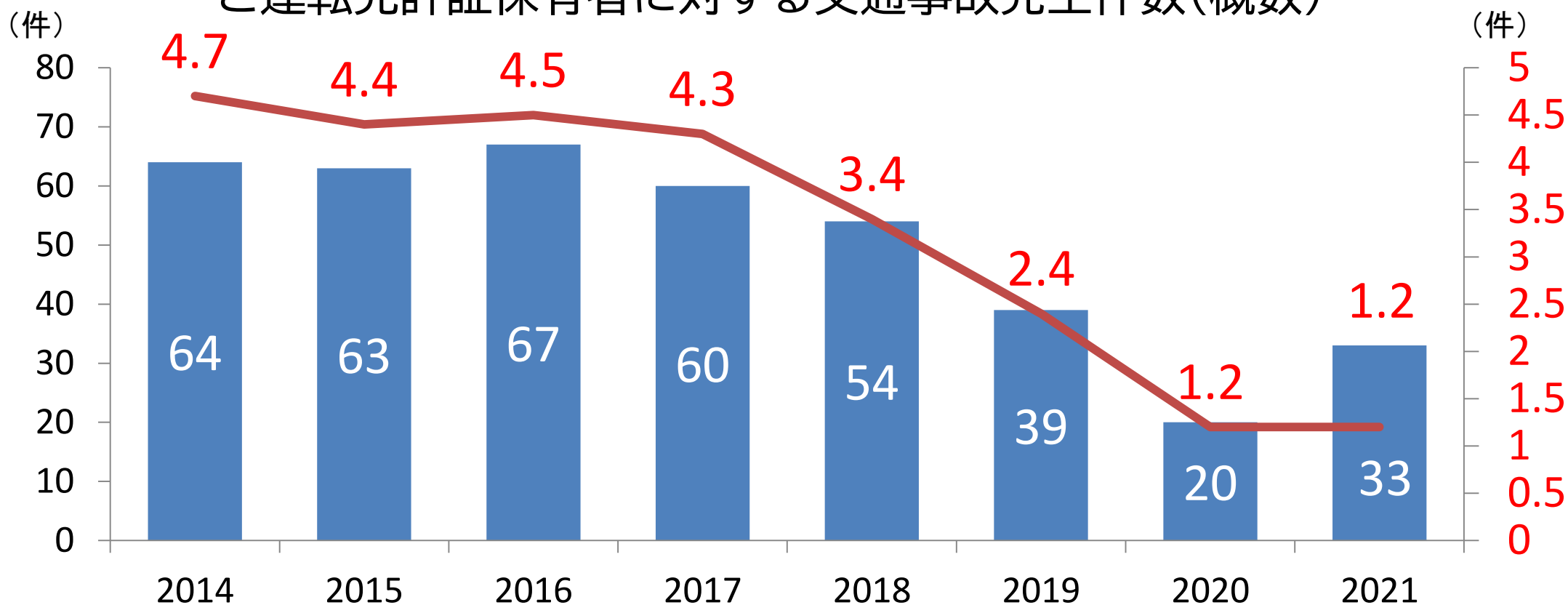
図表12 亀岡警察署における運転免許証自主返納者数
(70歳以上)



プログラム評価結果(長期)

「高齢ドライバーの事故は減少」

図表13 高齢ドライバー(第一当事者)の交通事故件数と運転免許証保有者に対する交通事故発生件数(概数)



支援事業開始

- 高齢ドライバー(65歳以上 第一当事者のみ)の交通事故件数
- 運転免許証保有者(65歳以上)に対する交通事故発生件数(1,000人あたり)

高齢者運転免許証自主返納支援 プログラムの支援状況詳細・アンケート結果

別紙1・2を
御覧ください

②自転車安全利用教育プログラム(継続)

課 題	自転車運転中の交通事故負傷者が多い	
目 標	10歳代の自転車の交通事故を減らす	
内容等	【内容】	自転車による交通事故防止を図るため、自転車大会や啓発活動を実施する
	【対象】	10歳代の児童・生徒
(短・中期) 態度や行動の 変化	【指標】 自転車の交通ルールに対して交通安全意識が高まった児童の割合 自転車の交通ルールを認識することにより日常行動が変化した児童の割合	【測定】 アンケート調査
(長期) 状態や状況の 変化	【指標】 自転車事故による搬送件数 (10-19歳)	【測定】 交通統計

自転車安全利用教育プログラムの活動状況(1)

交通安全子ども自転車大会

市内小学校による
全国大会26年
連続出場記録!



亀岡市大会



全国大会

第30回交通安全子ども自転車亀岡市大会

日時 令和4年11月5日(土)

午後1時30分～3時45分

場所 亀岡運動公園体育館(大競技場)

内容 市内小学校・義務教育学校のうち参加希望性による
参加希望校(千代川小学校、本梅小学校、曾我部小学
校、

青野小学校)が参加して学科テスト及び実技テスト
(安全走行・技能走行)を競い合う

(団体の部)

優勝 千代川小学校

準優勝 本梅小学校

(個人の部)

個人賞として3名を表彰

特別賞として3名を表彰



自転車安全利用教育プログラムの活動状況(2) 市内高校における自転車マナーアップ啓発活動



オリジナル横断幕や手持ち看板を用いて啓発活動を実施

プログラムの活動実績

		実績							対策委員会の関わり
		2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	
自転車大会 交通安全子ども	亀岡市	18 小学校 参加	18 小学校 参加	18 小学校 参加	18 小学校 参加	中止	中止	4校参加 (参加希 望性)	<ul style="list-style-type: none"> ●運営のバックアップ ●アンケート内容の検討
	京都府	優勝	優勝	優勝	優勝	中止	中止	中止	
	全国	3位	9位	9位	17位	中止	中止	中止	
自転車マナーアップ啓発活動		2回	4回	2回	5回	7回	4回	5回	<ul style="list-style-type: none"> ●啓発活動への参加

プログラム評価結果(短期・中期)

「小学生の交通安全意識は**向上**」

図表14 自転車の交通ルールに対して交通安全意識が高まった児童の割合と自転車の交通ルールを認識することにより日常行動が変化した児童の割合(n=72)

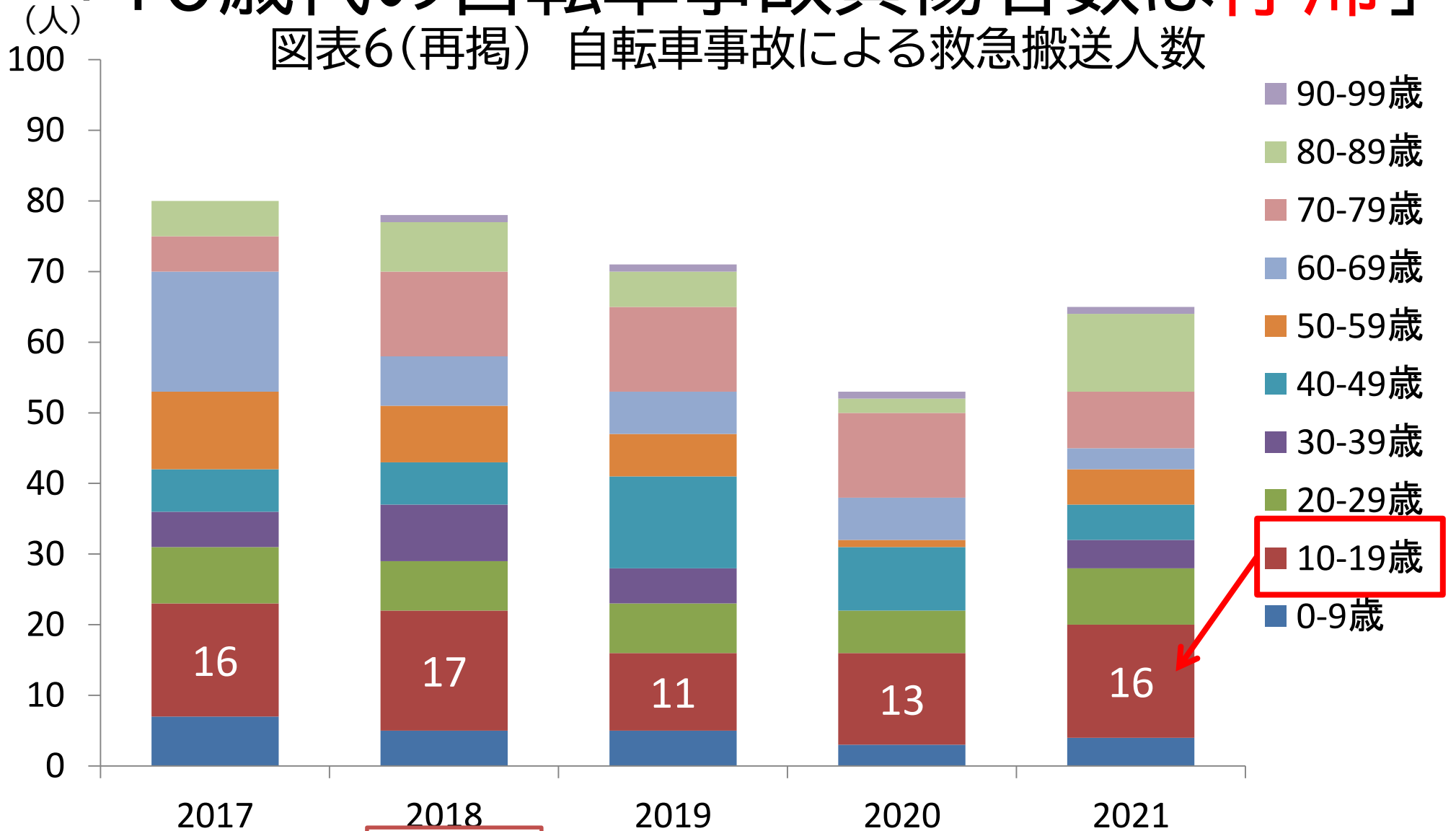
内 容		2017 (n=72)	2018 (n=72)	2019 (n=72)	2020	2021	2022 (n=16)
短期	自転車の交通ルールに対して交通安全意識が高まった児童の割合(%)	97%	98%	92%	—	—	94%
中期	自転車の交通ルールを認識することにより日常行動が変化した児童の割合(%)	96%	99%	90%	—	—	89%

出典:交通安全子ども自転車亀岡市大会アンケート調査

プログラム評価結果(長期)

「10歳代の自転車事故負傷者数は停滞」

図表6(再掲) 自転車事故による救急搬送人数

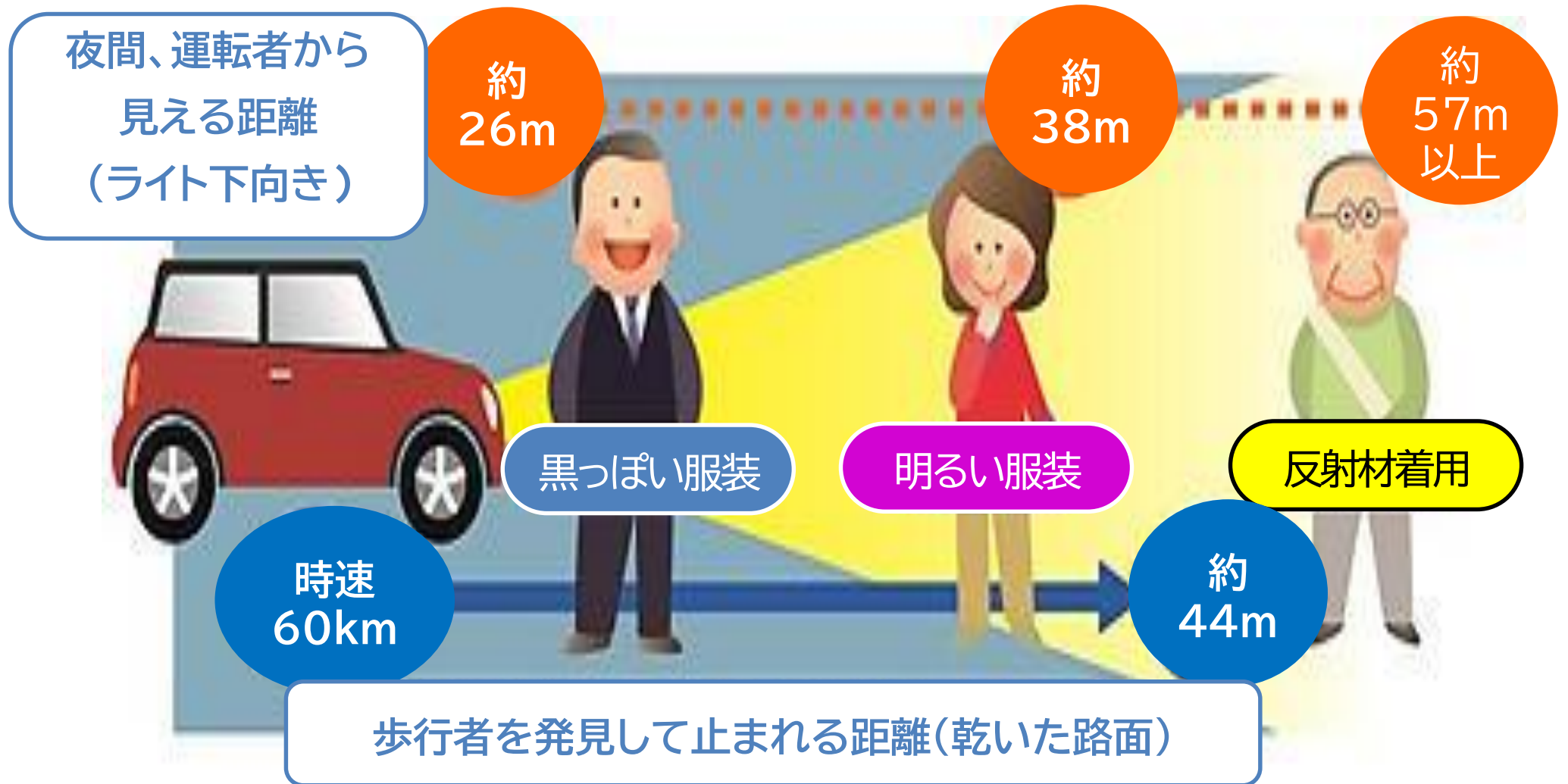


再々認証

③反射材着用促進プログラム(継続)

課 題	夜間の交通事故は重症化割合が高い	
目 標	一番重症化しやすい歩行者の事故を防ぐ	
内容等	【内容】	夜間の交通事故は重症化しやすいことから、反射材着用普及を目指す。
	【対象】	歩行者
(短・中期) 態度や行動の 変化	【指標】 反射材を着用するようになった 人の割合	【測定】 セーフコミュニティ アンケート調査
(長期) 状態や状況の 変化	【指標】 夜間の事故件数 夜間の歩行者の事故件数	【測定】 交通統計

なぜ反射材なのか？



反射材をつけた歩行者の発見距離は、2倍以上長くなる

反射材着用促進プログラムの活動状況(1)

反射材をテーマにしたショートムービーの作成

ショートムービー「君がくれたもの～反射材もらってよかった～」



反射材着用促進プログラムの活動状況(2)

イベント時に反射材の効果を啓発、配布



自転車大会実施時に、反射材体験コーナーの設置や、交通安全講習、ビンゴゲームなどを通じた反射材の啓発と配布を行った




ECOマルシェにおいて交通安全ゲームを行い、反射材の啓発と同時にゲームの景品として反射材を配布した

反射材の効果への理解度UPとともに着用率の増加を図った

反射材着用促進プログラムの活動状況(3)

オリジナル反射材ワークショップの実施①

「願いをこめて 交通安全反射材お守り」

日時	令和4年12月2日 午後4時00分～4時45分	
場所	曾我部小学校(モデル校) 放課後児童会	
目的	幼少期からの反射材の着用の習慣化を図る 夜間の歩行者(特に高齢者)の交通事故防止	
事業内容	小学校の子ども達に大切な人が交通事故に遭わないように 願いを込めて、ワークショップを通じて作成した塗り絵 反射材のお守りを渡してもらう。 参加した子ども達にはタックルバンドやストラップの 反射材など人気が高いものをプレゼントする。	
実施団体	亀岡警察署、SC交通安全対策委員会 亀岡交通安全協会、亀岡地域交通安全活動推進 委員会、亀岡市(社会教育課、自治防災課)	

反射材着用促進プログラムの活動状況(3)

オリジナル反射材ワークショップの実施②



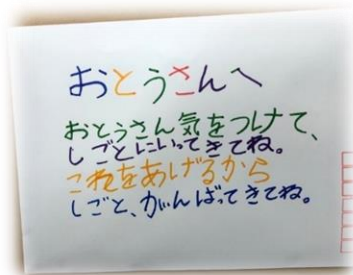
反射材の有効性についての説明



ワークショップの様子



作品例



大切な人への
メッセージを
綴った封筒



反射材体験BOX
を覗いて自分
が作成した
お守り反射材
の効果を確認
する子どもたち

反射材着用促進プログラムの活動状況(3)

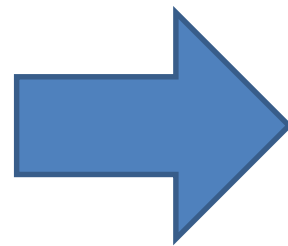
オリジナル反射材ワークショップの実施③

受け取り手を対象とした任意のアンケート結果

(対象者34人のうち14人が回答)

普段から反射材を着用している人の割合

29%



回答者の**86%**が
「今後はお守り反射材を着用したいと思う」
「歩行者の交通事故防止に効果があると思う」と回答した。

子ども達からは「楽しかった」

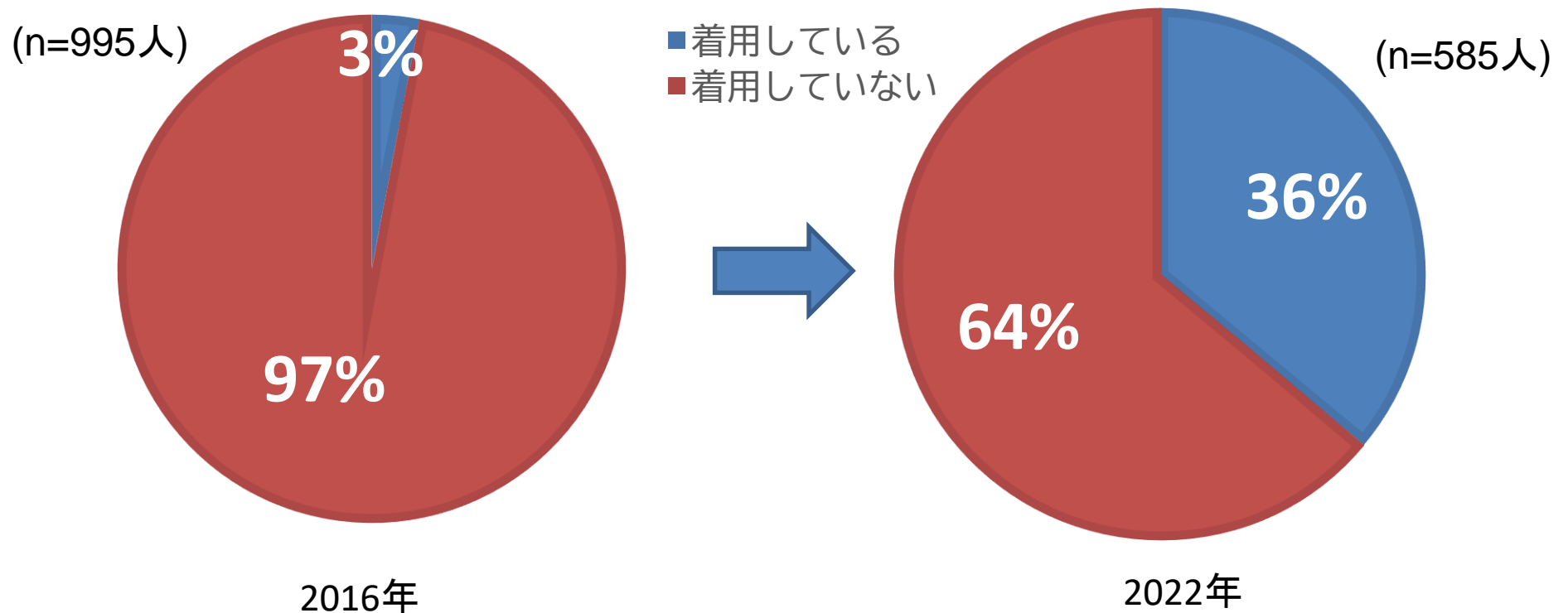
受け取り手からは「貰って嬉しかった」等の意見

プログラムの活動実績

	実 績				対策委員会の関わり	工夫点
	2019	2020	2021	2022		
反射材啓発活動の実施	2回 2箇所	—	—	—	●活動のバックアップ	★多くの人が集まる箇所で実施
反射材についてのショートムービーの作成	撮影	編集	投稿	投稿	●実施方法の検討	★反射材の効果をドラマを通じて啓発
オリジナル反射材ワークショップの実施	—	—	—	モデル校 1校で 実施	●企画に発案 ●実施方法の検討	★反射材を着用する心理的なインセンティブに着目
反射材窓口配布 (自主返納)	399人 配布	381人 配布	397人 配布	集計中	●実施についての効果検証	★靴に貼付できる反射材を配布

プログラム評価結果（短期・中期）

図表14 反射材を着用するようになった人の割合の変化



出典：2016年 亀岡市セーフコミュニティアンケート調査
2022年 亀岡市セーフコミュニティアンケート調査

プログラム評価結果(長期)

「夜間の歩行者の事故は停滞」

図表15 夜間の交通事故件数及び歩行者の事故件数

	2017	2018	2019	2020	2021
夜間の事故件数	73件	70件	38件	35件	31件
夜間の歩行者の事故件数	6件	8件	9件	12件	6件

夜間の事故件数
5か年減少率

全国
-40.6%

府
-51.9%

亀岡市
-57.5%

出典:交通統計

④参加型交通安全プログラム（継続）

課 題	交通安全意識が低い	
目 標	交通安全意識の普及・高揚を図る	
内容等	【内容】	交通安全意識の普及・高揚を目指し、市民参加型の交通安全の取り組みを行う。
	【対象】	市民
(短・中期) 態度や行動の 変化	【指標】 市民ボランティアの数 交通安全活動に参加している人の割合	【測定】 セーフコミュニティアンケート調査
(長期) 状態や状況の 変化	【指標】 交通事故件数	【測定】 交通統計

参加型交通安全プログラムの活動状況(1)

かめおか「セーフティドライブ」プロジェクト



プログラムの活動実績

	実績					対策委員会の 関わり	工夫点
	2017	2018	2019	2020	2021		
かめおか 「セーフティ ドライブ」 プロジェクト	381 台	81 台	51 台	168 台	118 台	<ul style="list-style-type: none"> ●企画の発案 ●運用方法の検討 ●シンボルマーク の選定 	<ul style="list-style-type: none"> ★市民参加 型の取組 ★シンボル マークを公 募 ★防犯対策 委員会と合 同で推進

・累計登録台数 **799台**(運用開始日～2021年度末)

プログラム評価結果(長期)

「交通事故発生件数は減少傾向にある」

	2017	2018	2019	2020	2021
全国	472,165	430,601	381,237	309,178	305,196
京都府	7,145	6,142	5,183	4,118	3,859
亀岡市	228	219	139	118	120

5か年減少率

全国
-35.4%

府
-45.9%

亀岡市
-50.8%

(件)

出典:交通統計

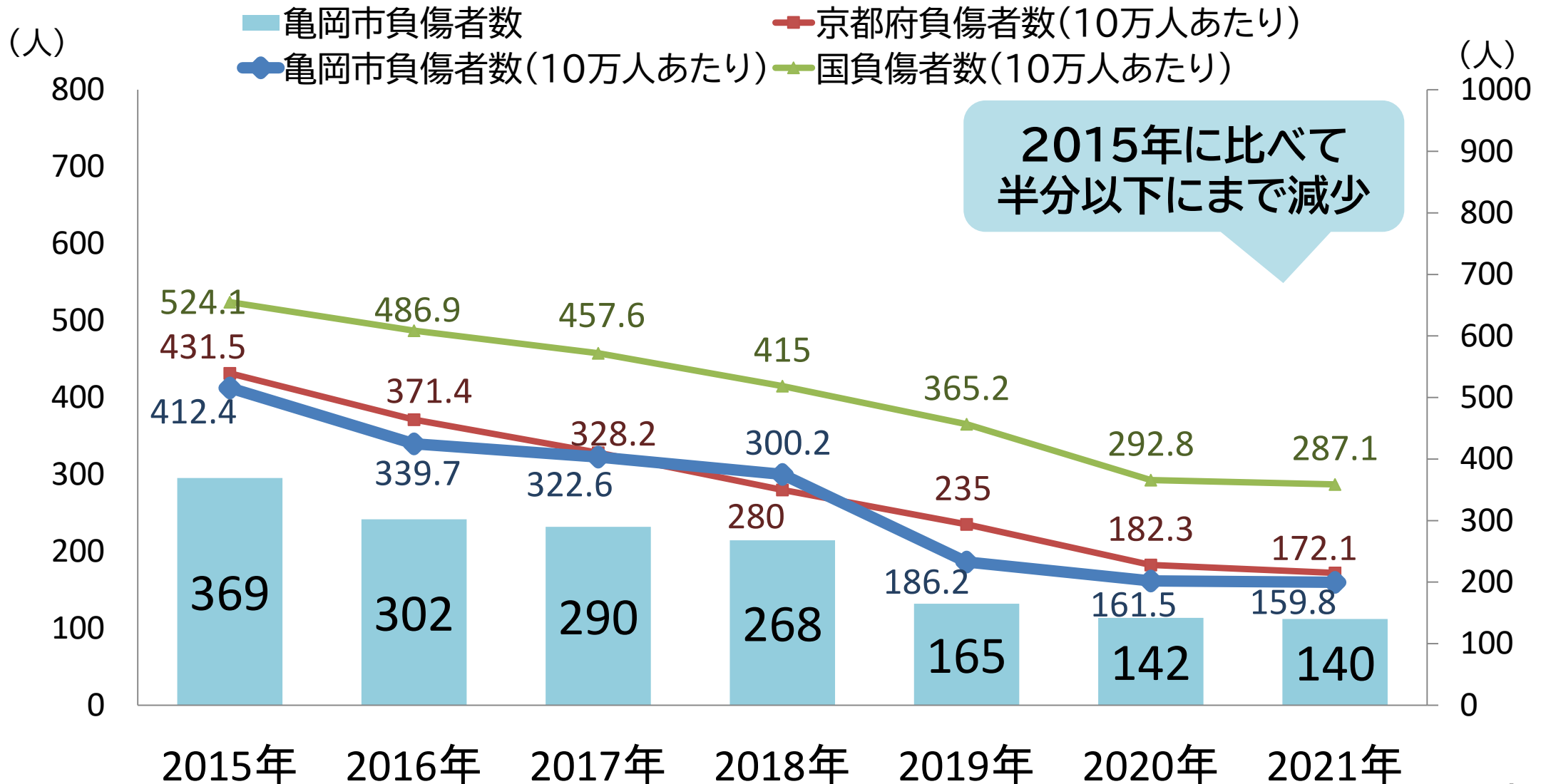
参加型交通安全プログラムの活動状況

別紙3を
御覧ください

取組成果の検証

「交通事故負傷者数は大幅に減少」

図表16 交通事故負傷者数の推移



再々認証

出典:交通統計

気づきや変化

●PDCAサイクルの実施により、課題を見直し、既存の取組を検討する機会につながっている。

●様々な立場の委員が参加することで、活動の推進につながっている。

現在の課題

反射材の着用率が低く、夜間の歩行者の事故件数も減っていないため、取組の工夫が必要！

歩行者側だけでなく、ドライバーのモラル・安全意識に訴えかけるような対策も検討していく必要がある

今後の計画

2023

2024

2025

2026

2027

2028

プログラム① 継続 高齢化に伴い対策を続ける

プログラム② 継続 自転車のさらなるマナー向上へ

プログラム③ 拡大 反射材を着用してもらう工夫を検討

プログラム④ 継続 ボランティアの参加者を増やす